

わたしの祭語り epi.3

田 鹿 一 男

第45回～市民流し部長

おまんた祭りとは…

若い人を育てる場である



お祭り期間中はどのような活動をされていますか？



8年間の長きに渡り、実行委員長を務めておりました。当時は毎日事務局へ足を運び、進捗状況の確認や困っていることは無いか又は、たわいもない世間話などで事務局員や来訪者に話しかけ場を盛り上げ、和ませることを心掛けていました。

3カ月と短い期間の中でお祭りの準備をしていくことは並大抵のことではありません。私も時に自ら駅前不提灯飾りつけや各店舗へのCDやポスターの配布など率先して行っていました。じっとしてられない性分もありますが、トップ自らが行動し、態度で示すことは祭りを続ける上で欠かせないことと思います。

現在は市民流し部長として祭り当日の市民流しの運営だけでなく、踊りやお囃子を今後どのように継承していくか？担い手の確保はどうするのか？など大きな問題と向き合っています。事務局が閉局している間も「おまんた囃子保存会」と共に解決策の糸口を見つけていかなければならないと思っています。



過去のおまんだ祭りの思い出を教えてください。



JRの職員だった頃、会社で縁日に出店したことがあります。夏の暑い日に威勢の良い掛け声で、いろいろなものをタタキ売りして同僚たちと大いに笑い楽しんだ記憶が目を閉じると思い出されます。

口の字を囲む商店街の酒屋の前には多くのふるまい酒が並んでおり一つ残らず飲み干しながらおまんだ囃子を踊り仲間と共に祭りの夜に酔いしれていた記憶があります。多くの店が並び、夜遅くまで明かりが灯されたまちなかはまるで夏の一夜の夢世界でした…。

向かい合わせに踊る乱調では久しぶりに会う友人たちとすれ違うたびに抱き合い再会を喜びあったことは、今でも忘れられない大切な思い出です。

このインタビューを答えるにあたり、自分はやはり心から「祭が好きなんだなあ」と実感しました。



未来のおまんた祭りへメッセージをお願いします。



人口減少もあり残念ながらおまんた祭りのメイン企画である大市民流しの参加人数は年々減少しつつあります。

もっと若い世代が参加しやすくなるようにとクラブや団体、サークルなどで参加できる「パフォーマンスレーン」を途中から設け、参加しやすくなる環境を整えてきましたが近年、伝統的な踊り方がなされていないとのご指摘も…。

私が思うのは、受け継がれてきた伝統も大切ですが、より多くの市民が楽しく参加できるようあまり厳しい規制はせず、子供は子供らしく伸び伸びと踊って欲しいと思います。それが若い人を育てる第一歩だと思います。

田鹿市民流し部長

素敵な祭語りありがとうございました。

【語りを聞いて…】

お祭りを開催するまでには何度も打合せや準備を重ねます。

地域の中で、そして世代を超えて、必然と関わりは深くなります。

若い世代がマチや地域に興味をもつきっかけとなる「祭」

想いが伝われば、次世代へもつながる。そう感じた語りでした。

踊りおどれや 上手も下手も 今夜ばかりはヨ

誰に気兼ねも 何いるものか

嫁も姑も和やかに…

おまんた囃子より